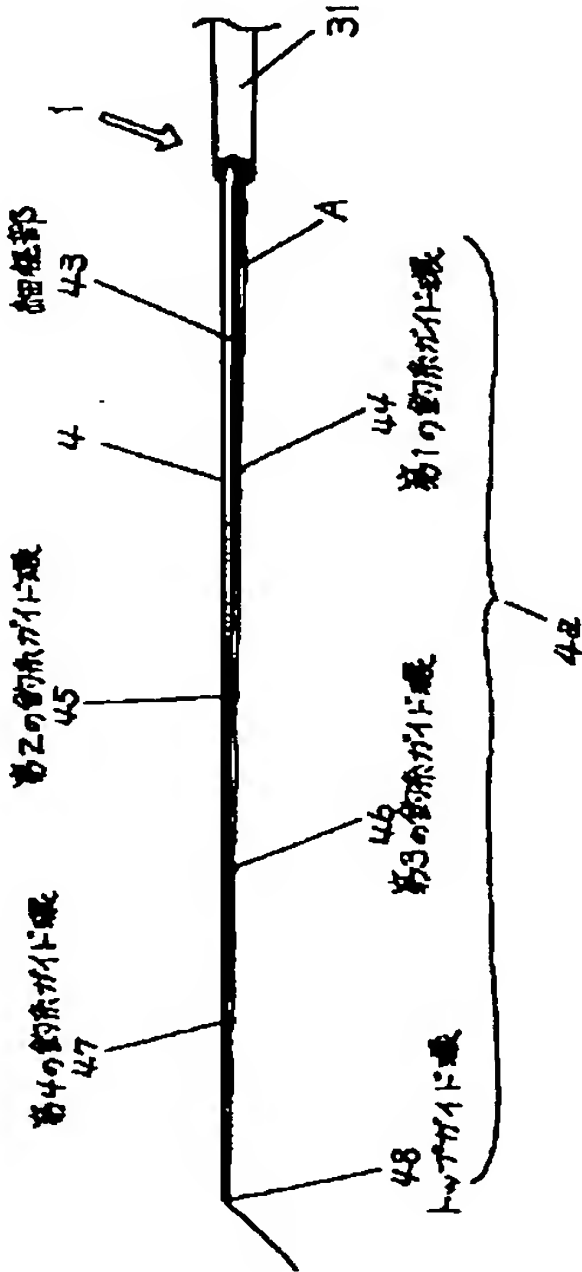


(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K 87/00				
87/04	Z	8602-2B		
87/06	A	8602-2B		
		8602-2B	A 0 1 K 87/ 00	B
審査請求 有 請求項の数8 O L （全 13 頁）				

(21)出願番号	特願平6-304927	(71)出願人	593232273 内藤 清 名古屋市緑区有松町大字桶狭間字上ノ山56番第12番地
(22)出願日	平成6年(1994)12月8日	(72)発明者	内藤 清 名古屋市緑区有松町大字桶狭間字上ノ山56番 第12番地
(31)優先権主張番号	特願平5-327366	(74)代理人	弁理士 竹中 一宜
(32)優先日	平5(1993)12月24日		
(33)優先権主張国	日本（J P）		

(54)【発明の名称】 中通し振出竿と、中通し振出竿の手元竿、及び中通し振出竿等の穂先竿の構造

(57)【要約】
【目的】 中通し振出竿と、中通し振出竿の手元竿等の構造に関する。
【構成】 中通し振出竿は釣糸挿入ワイヤを要さずして、中通し振出竿に、簡易かつ迅速に釣糸を挿入し得るもので、その構造は、基端2 aにリール5を備え、かつ竿蓋8に釣糸挿通用の孔8 1を設けてなる手元竿2入れ子式に収容される数本の中通し用の振出竿3の穂先側振出竿3 1に収容され、かつ当該穂先側振出竿より振出された状態で、当該穂先側振出竿の先端開口部3 2に係止される係合基部4 2を備えた穂先竿4、及び穂先竿の少なくとも係合基部に設けた前記釣糸を挿通する孔4 1、並びに穂先竿の振出部外周面に設けた釣糸ガイド環4 4～4 7及びトップガイド環4 8と、でなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 基端にリールを備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けてなる手元竿と、

この手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿と、

この振出竿の穂先側振出竿に収容され、かつ当該穂先側振出竿より振出された状態で、当該穂先側振出竿の先端開口部に係止される係合基部を備えた穂先竿と、

この穂先竿の少なくとも係合基部に設けた前記釣糸を挿通する穿孔、道孔、その他孔、開口等の孔と、

前記穂先竿の振出部の外周面に設けた釣糸ガイド環及び

トップガイド環と、

で構成される中通し振出竿。

【請求項2】 上記穂先竿の孔は、当該穂先竿の係合基部に後付けされる構成の請求項1の中通し振出竿。

【請求項3】 上記穂先竿の穂先竿の少なくとも穂先側振出竿より振出される振出部に切欠、溝、切欠溝、細径等の細径部を設けてなる構成の請求項1の中通し振出竿。

【請求項4】 上記細径部は、少なくとも穂先竿の係合基部より穂先側に向かって設け、そのほぼ中央部の径が、当該部位の径の1/2以上の太さを有する細径部を設けた構成となっている請求項3の中通し振出竿。

【請求項5】 基端に当該基端より突出する手元釣糸ガイド環を有するとともに、当該基端にリールを取付けるリール取付部を備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けた手元竿、及びこの手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿・穂先竿でなる中通し振出竿であって、

当該中通し振出竿のリール取付部は、竿蓋側にリール基板一方側嵌合用の固定受入口を、穂先側にリール基板他方側嵌合用の摺動受入口を、それぞれ配設する構成とした中通し振出竿の手元竿の構造。

【請求項6】 基端に当該基端より突出する手元釣糸ガイド環を有するとともに、当該基端にリールを取付けるリール取付部を備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けた手元竿、及びこの手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿・穂先竿でなる中通し振出竿であって、

当該中通し振出竿のリール取付部は、その竿蓋側にリール基板一方側嵌合用の固定受入口、またその穂先側にリール基板他方側嵌合用の摺動受入口をそれぞれ設けるとともに、前記固定受入口に設けた挿入孔を介して、当該固定受入口と前記摺動口との間に装着される前記手元釣糸ガイド環を備えたリール取付本体部を有するリール取付具を、設ける構成とした中通し振出竿の手元竿の構造。

【請求項7】 基端にリール及び手元竿より突出する手元釣糸ガイド環を有するリール取付部を着脱自在に取付けるリール装置を備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設

けた手元竿、及びこの手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿・穂先竿でなる中通し振出竿であって、

当該中通し振出竿のリール装置は、竿蓋側にリール取付部の取付基板一方側嵌合用の取付部固定受入口を、穂先側にリール取付部の取付基板他方側嵌合用の取付部摺動受入口を、それぞれ配設する構成とした中通し振出竿の手元竿の構造。

【請求項8】 手元竿の基端にリールを備えかつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、又は手元竿にリールを備えかつ当該手元竿に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、又は手元竿にリールを備えかつ当該手元竿と元上が並継ぎで、その元上に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、及びこれらの中通し振出竿の手元竿、元上等に収容される幾本かの中通し用の振出竿と、この振出竿の穂先側振出竿に収容され、かつ当該穂先側振出竿より振出された状態で、当該穂先側振出竿の先端開口部に係止される係合基部を備えた穂先竿、等の穂先竿であって、

この穂先竿は、当該穂先竿の少なくとも係合基部に設けた前記釣糸を挿通するための孔とかつ少なくとも当該係合基部より穂先側に向かって設けた細径部と、かつ当該振出部の外周面に設けた釣糸ガイド環及びトップガイド環と、で構成される中通し振出竿等の穂先竿の構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、中通し振出竿と、中通し振出竿の手元竿、及び中通し振出竿等の穂先竿の構造に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、風による釣糸のぶれを防止することができると中通し振出竿が重宝されている。その構成は、図25に示す如く、手元竿1000にリール1001を取付け、当該リール1001から繰り出された釣糸Aは、前記手元竿1000のほぼ中央の孔1000aより竿内に入った後、中空状の中通し振出竿1002A及び穂先竿1003を経由して、当該穂先竿1003の先端小開口部（小孔）1004より、竿外に繰り出される機構となっている。そして、この構成では、手元竿のほぼ中央の孔より竿内に挿入することから、リールから小孔まで竿外に露出する釣糸が邪魔となる問題がある。また中通し振出竿から穂先竿まで釣糸を挿入するのに、釣糸挿入ワイヤー（中通し挿入ワイヤー）を要し、作業が面倒であること、又は釣糸挿入ワイヤーを別途要し、煩わしいこと、等の問題がある。更に穂先竿内に釣糸を挿入する構成であることから、当該穂先竿の外径寸法（外寸）が大きくなる。したがって、在来の如く、穂先竿としての微妙な弾性（撓み弾性）に乏しいこと、又は魚に違和感を与え、魚を取り逃すこと、等の問題が考えられる処である。

【0003】尚、前記問題の一部を解消する中通し振出竿及びこれに類する先行技術としては、下記の発明又は考案が見当る。(1)特開昭59-42827号の中通し振出竿がある。この発明は、中空孔を有する穂先竿、振出竿及び手元竿にて中通し振出竿(以下、改良中通し振出竿とする。)を構成し、この改良中通し振出竿の手元竿と、この手元竿の基端の竿蓋(保護キャップ)との間に釣糸道孔を形成し、この釣糸道孔を経由して、穂先竿の中空孔に達する構成である。(2)実開平4-62061号の釣竿がある。この考案は、改良中通し振出竿で、その竿蓋(底蓋)に大小の係止孔を形成し、かつこの大小の係止孔を形成し、かつこの大小の係止孔に係脱する大小ストッパーを設け、中通し釣糸を長短させる構成である。(3)特開平4-30740号の内蔵糸巻き式振出し釣竿がある。この発明は、改良中通し振出竿の手元竿の基部にリールを内蔵し、テーパ状の釣糸道孔を介して、中空孔を有する穂先竿に釣糸を導く構成である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】以上で詳述した先行技術は、改良中通し振出竿外に釣糸が露出しない構成であり大変有益である。しかし、その反面釣糸挿入ワイヤーを必要とし、前述した従来の中通し振出竿と同様な課題が考えられる。また穂先竿の貫通孔及び先端孔を介して、釣糸が当該穂先竿に導かれる構成となっていることから、従来の中通し振出竿と同様に、外寸が大きくなり、当然外寸の大きさに起因する多くの課題が考えられる。また穂先竿の先端まで釣糸を通す構造であることから、当然穂先竿の外寸が大きくなり、しなやかさに欠けること、及び魚に違和感を与える虞れが多分にある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記に鑑み、本発明は、釣糸挿入ワイヤーを必要とせず、中通し振出竿に簡易かつ迅速に釣糸を挿入し得ること、穂先竿の外寸を小さくして、少なくとも従来のソリッド(中実、むく、又は中実嵌め込み等を云う。以下同じ)、中空状の穂先竿と同様な弾性感覚を発揮し得ること、を目的として、下記の構成を採用した。

【0006】即ち、本発明の中通し振出竿は、基端にリールを備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けてなる手元竿と、この手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿と、この振出竿の穂先側振出竿に収容され、かつ当該穂先側振出竿より振出された状態で、当該穂先側振出竿の先端開口部に係止される係合基部を備えた穂先竿と、この穂先竿の少なくとも係合基部に設けた前記釣糸を挿通する穿孔、道孔、その他孔、開口等の孔と、前記穂先竿の振出部の外周面に設けた釣糸ガイド環及びトップガイド環と、で構成される。

【0007】また、本発明は、リールの取付け位置を変更して中通し振出し竿に重量バランスを確保すること、

等を目的として、下記の構成を採用する。

【0008】即ち、本発明の中通し振出竿の手元竿は、基端に当該基端より突出する手元釣糸ガイド環を有するとともに、当該基端にリールを取付けるリール取付部を備え、かつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けた手元竿、及びこの手元竿に入れ子式に収容される幾本かの中通し用の振出竿・穂先竿でなる中通し振出竿であって、当該中通し振出竿のリール取付部は、竿蓋側にリール基板一方側嵌合用の固定受入口を、穂先側にリール基板他方側嵌合用の摺動受入口を、それぞれ配設する構成である。

【0009】更に本発明は、穂先竿の外寸を小さくして、しなやかさを十二分に発揮できること、及び魚に違和感を与える虞れがないようにすること、等を目的として、下記の構成を採用する。

【0010】即ち、本発明の中通し振出竿等の穂先竿の構造は、手元竿の基端にリールを備えかつ竿蓋に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、又は手元竿にリールを備えかつ当該手元竿に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、又は手元竿にリールを備えかつ当該手元竿と元上が並継ぎで、その元上に釣糸挿通用の孔を設けてなる中通し振出竿、及びこれらの中通し振出竿の手元竿、元上等に収容される幾本かの中通し用の振出竿と、この振出竿の穂先側振出竿に収容され、かつ当該穂先側振出竿より振出された状態で、当該穂先側振出竿の先端開口部に係止される係合基部を備えた穂先竿、等の穂先竿であって、この穂先竿は、当該穂先竿の少なくとも係合基部に設けた前記釣糸を挿通するための孔とかつ少なくとも当該係合基部より穂先側に向かって設けた細径部と、かつ当該振出部の外周面に設けた釣糸ガイド環及びトップガイド環と、で構成される。

【0011】

【作用】以下、本発明の作用(釣糸の挿入方法、リールの着脱方法等)を説明する。先ず、リールを取付ける状態より説明すると、図16に示す例は、手元竿の手元側(基端)に設けられたリール取付部の摺動受入口のロック片を押上げ、係止爪と係止溝とのロックを解除し、当該摺動受入口をフリー状態とする(勿論、ロックが解除された状況では不要の動作である。以下同じ)。そこで、続いてリールの基板一方側をリール取付部の固定受入口に挿設するとともに、リール基板を取付部の本体部に添接する。この状態において、フリー状態の摺動受入口を前後動調整(以下、単に調整とする。)し、当該摺動受入口をリールの基板他方側に套嵌する。そして、ついでロック片を押下げ、係止爪と係止溝とをロックし、このロックを介して、摺動受入口は固定され、同時にリール取付部にリールが取付けられる。

【0012】そこで、手元竿の竿蓋を取外した後、当該リールより釣糸を導き出し(引き出し)、手元釣糸ガイド環を経由させた後、竿蓋の孔に到らしめる(尚、直接竿蓋に到らしめる場合も有り得る。)。つづいて穂先竿

の係合基部の孔に挿入した処で、少なくとも当該穂先竿を手元竿より引き出し（引き抜き）、同時に前記孔に挿通された釣糸を第1の釣糸ガイド環から順次挿通していき、第4の釣糸ガイド環（釣糸ガイド環の数と位置は限定されない。以下同じ）を経由してトップガイド環に到らしめる。そこで、釣糸を通した状態のまま穂先竿をもとの位置に戻した後、上栓をはずし（図示せず、以下同じ）、望ましくは、釣糸を貫通させた穂先竿を僅か引き出した状態で、釣糸の弛みを取り竿蓋を閉める。これで、手元竿、振出竿、穂先竿の一部に釣糸が中通しとなり、かつ各釣糸ガイド環を介して、釣糸が装置される。但し、穂先竿に添接される釣糸は、第1の釣糸ガイド環～第4の釣糸ガイド環並びにトップガイド環を介して、当該穂先の外周面に沿って導かれる。そこで、釣糸を竿長より長く繰り出した後、例えば、在来と同様に手元竿より穂先竿及び振出竿の如く順次振り出し、一本の釣竿とするとともに、釣糸をトップガイド環を介して、所定の長さに繰り出される。このようにして、導かれた釣糸の先端にある釣針に釣餌をつけて、釣を楽しむが、この場合、リールが手元竿の基端にあることから、中通し振出竿のバランスがよく、当該中通し振出竿を軽やかかつ容易に操作できる。また手元竿に釣糸挿通用の孔を設けた場合、先ず手元竿にリールをセットした後、止蓋（尻栓、以下同じ）をはずし幾本かの中通し振出竿及び穂先竿を手元竿より入れ子式の状態に取り出す。その後、当該リールより適当な長さの釣糸を繰り出し孔に挿入し手元竿の竿尻に釣糸をだす。但し、釣糸が細く、しかもしなやかすぎて竿尻にでない場合は、当該釣糸の先端に孔より小さいかみつぶし（おもり）をはさみつけ（取り付け）、前記繰り出し孔に挿入した後、前記かみつぶしの重さを利用して手元竿の竿尻にだす。ここで、かみつぶしをはずす。その釣糸を穂先竿の係合基部の孔に挿入したところで、少なくとも穂先竿を引き抜き、同時に前記孔に挿通された釣糸を第1の釣糸ガイド環から順次挿通していき、トップガイド環に到らしめる。そこで、釣糸を通した状態のまま穂先竿をもとの位置に戻した後、幾本かの中通し用の振出竿とともに手元竿に戻す。その後、上栓をはずし、望ましくは、釣糸の弛みを取り、続いて止蓋を閉める。さらに手元竿と元上が並継で、その元上に釣糸挿通用の孔を設け、かつ当該元上に幾本かの中通し用の振出竿及び穂先竿が挿設される中通し振出竿の場合は、まず上栓として機能する嵌合方式の手元竿を元上より脱外し、リールをセットする。次に幾本かの中通し用の振出竿及び穂先竿が収容されている元上の元上止蓋（図示せず、以下同じ）をはずし、幾本かの中通し用の振出竿及び穂先竿を当該元上より入れ子式の状態に取り出す。その後、当該リールより適当な長さの釣糸を繰り出し、当該元上に設けた孔に挿入して、当該元上の竿はじ（竿尻、以下同じ）にだす。但し、釣糸がでない場合は、前述と同様かみつぶしを取り付け竿はじにだ

す。ここで、かみつぶしをはずし前記繰り出した釣糸を、少なくとも前記穂先竿の係合基部の孔に挿入した処で、当該穂先竿を引き抜き、第1の釣糸ガイド環から順次挿通しトップガイド環に到らしめる。そこで釣糸を通した状態のまま穂先竿をもとの位置に戻し、幾本かの中通し用の振出竿とともに元上に戻す。望ましくは、釣糸の弛みを取り、元上の元上止蓋を閉める。その後手元竿と元上を並継する。

【0013】尚、図17～図21に示す例は、リールの他の各例を示している。その内、先ず、図17～図19に示す例は、手元竿の基端に設けられたリール装置とリール取付部との組合せでなる例であり、具体的には手元竿の基端に設けたリール装置の取付部固定受入口に手元釣糸ガイド環を有するリール取付部の取付基板一方側を挿設するとともに、前記リール取付部の取付基板をリール装置の本体部に添接する。この状態において、フリー状態（フリー状態になっていない場合は、ロック片を開放する。）の摺動受入口を調整し、当該摺動受入口をリール取付部の取付基板他方側に套嵌し、ついでロック片を押下げ、係止爪と係止溝とのロックを介して摺動受入口は固定され、同時にリール装置にリール取付部を介してリールが取付けられる。勿論、リール取付部にリールが自由に着脱されることは、前述の通りである。次に図20、図21に示す例は、前述図16に示した例の変形例であり、具体的には、固定受入口に挿入孔を設け、この挿入孔より手元釣糸ガイド環を有するリール取付具のリール取付本体部を挿入し、ストッパーを挿入孔の周辺に衝止させることにより、当該リール取付具は、当該リール取付本体部を固定受入口と摺動受入口との間に装着される。そこで、リールの基板一方側を固定受入口とリール取付本体部との隙間に挿入するとともに、当該リールの基板他方側を摺動受入口とリール取付本体部との隙間に挿入する。これにより、リールの基板一方側及び同基板他方側は、それぞれ係止されるとともに、リール基板がリール取付本体部に添接されるので、前述の例と同様にロック片の操作及び作用により、リール取付部にリールが取付けられる。

【0014】

【実施例】以下、本発明の一実施例を説明します。そして、具体的な説明の前に、本出願人、本発明に対しまして、平成5年12月24日、特願平5-327366号の中通し振出竿と、中通し振出竿の手元竿の構造の発明に基づいて、特許法第41条第1項の規定による国内優先権を主張する。

【0015】図中1は中通し振出竿であって、当該中通し振出竿1は、この例では手元竿2と、幾本かの振出竿3（穂先側振出竿31を含む）と、穂先竿4と、で構成されている。そして、先ず手元竿2の基端2aにはリール5を取付けるリール取付部6が設けられており、当該リール取付部6は、基端2aの竿蓋側に設けたリール5

の基板一方側51が挿設（挿入）される固定受入口61、表面に係止溝62を備え、かつリール5のリール基板53が添接（当接）される手元竿2の基端2aに設けたほぼ板状の本体部63、前記基端2aの穂先側に設けたロック片64及び係止爪65を備えたリール5の基板他方側52が挿設される摺動受入口66、とで構成されている。このリール取付部6の構成及び操作は、従来のリール取付機構とほぼ同様であるが、手元竿2の基端2aに固定受入口61が設けられていることが通常の取付方法と異なる。そして、前述の如く、摺動受入口66は、当該摺動受入口66の調整及びロック片64の操作を介して、適宜位置の係止溝62と係止爪65とを係合し、当該摺動受入口66を移動（摺動）位置で固定し、この固定された当該摺動受入口66と固定受入口61の緊締を介して、リール取付部6にリール5を装置する構成となっている。尚、7は前述基端2aより突出するように設けた手元釣糸ガイド環、8は釣糸A挿通用の透孔、道孔、その他孔、開口等の孔81を有する竿蓋で、望ましくは螺着脱方式、嵌合方式等を採用する。

【0016】次に穂先竿4の構成を説明すると、当該穂先竿4は穂先側振出竿31の先端開口部32に係止（振出し時である。）され、かつ釣糸Aを挿通するための穿孔、道孔、その他孔、開口等の孔41を備えた係合基部42と、前記振出し時に穂先側振出竿31より突出する振出部4aと、当該振出部4aに設けた第1の釣糸ガイド環44、第2の釣糸ガイド環45、第3の釣糸ガイド環46、第4の釣糸ガイド環47並びにトップガイド48と、で構成されている。そこで、係合基部42と細径部43（詳細は後述する。）との関係を概説すると、当該係合基部42より細径又は一部が細径でなる細径部43の第1の目的は、前記孔41より振り出される（繰り出される）釣糸Aが、前記振出し時に前記先端開口部32をスムーズに導かれ、当該細径部43に達することである。また第2の目的は、振出竿3中におけるこの穂先竿4の孔41を経由した釣糸Aが、当該穂先竿4とともにスムーズに穂先側振出竿31の先端開口部32を通過できることにある。尚、振出竿3の本数及び釣糸ガイド環の数と位置は図例、説明例に限定されない。又穂先竿4は、ソリッド方式（以下、ソリッドとする。）、中空方式（以下、中空状とする。）又は、ソリッドと中空状との組合せ方式（以下、組合せとする。）等いずれの方式も採用可能である。

【0017】続いて穂先竿4の細径部43の具体的な一例を、図13の断面図に示すア、イ、ウ、エで詳述すると、図3と図7のア、イ、ウ、エに示す位置において、前記細径部43は前記図のア、イ、ウ、エに示す断面をそれぞれしている。そして、まず、アは係合基部42の基端42aで、穂先側振出竿31の先端開口部32からぬけ出ない太さでかつ環状（中実を云う。以下同じ）又は中空状をなす。次にイは係合基部42のところで、穂

先側振出竿31の先端開口部32の内径とほぼ等しい太さで、かつ環状又は中空状をなし孔41を有する。ウは前記係合基部42の下側（海側）向き・上側（空側）向きに設けられた細径部43のほぼ中央で当該部位の径の1/2以上の太さでソリッド又は中空状をなす。またエは細径部43のほぼ先部で、切欠きは若干であり、ソリッド又は中空状をなす。また前記細径部43の基端43aが穂先側振出竿31の先端開口部32の内側に入り込んでいる構成、又は入り込まない構成、更には係合基部42が細径部43と連設・非連設等する構成等の何れでも可能であり、限定されない。尚、細径部43が設けられる処は、振出部4aの上下面、側面又は上・下面より側面に亘る部位等の組合せ面などがある。尚、穂先竿4の調子・軽量化・魚の喰込み等を考慮して、細径部43の基端43aより当該細径部43の先端にかけて一本又は複数のU字形、V字形、凹形等の切欠きを設ける場合も有り得る。

【0018】次に、穂先竿4の係合基部42、孔41及び穂先側振出竿31の先端開口部32（以下、単に先端開口部32とする。）との関係を示す各例を、以下に具体的に説明する。まず、図3に示す第1の例は、中空状の細径部43と、この細径部43の基端43aに設けられた孔41を形成し、かつ先端開口部32に係止（係合、抜け止め等）される係止部として機能する環状の係合基部42とでなる構成であり、穂先竿4の細径部43が予め細径に構成した好ましい一例である。勿論係合基部42は、細径部43の形成後に取付けられる構成でもよい（以下同じ）。尚、孔41及び細径部43を介して釣糸Aが穂先へ導かれる（以下同じ）。次に図4に示す第2の例は、ソリッドの細径部43と、環状の係合基部42との組合せ構成であり、前記第1の例とほぼ同様な構成である。また図5に示す第3の例は、ソリッドの細径部43と、この細径部43の基端43aに先端開口部32に係止される係合基部42を設け、この係合基部42には、当該係合基部42の端面42aより細径部43に達する孔41を設ける構成である。更に図6に示す第4の例は、ソリッドの細径部43と、この細径部43の基端43aに設けた先端開口部32に係止される係合基部42と、この係合基部42に、当該係合基部42の端面42aより細径部43に達する切欠き状の孔41を設ける構成である。次に図7に示す第5の例は、ソリッドの細径部43と、この細径部43の基端43aに設けた先端開口部32に係止される係合基部42と、この係合基部42に開口を経由して下方（下方に限定されず、後述参照）に向かって、かつ細径部43に達する斜設した孔41を設けた構成である。

【0019】尚、図9に示す第7の例は、この図7に示す第5例の上向き構成例を示しており、その構成はほぼ同様であるが、細径部のところが、中実嵌め込みのソリッドとなっている構成等が相違する。次に図8に示す第

6の例は、ソリッドの細径部43を、振出部4aの側面（図例では、手前側である。）に設け、この細径部43の基端43aに設けられた前記係合基部42と、この係合基部42に設け、かつ細径部43に達する孔41と、でなる構成である。また図10に示す第8の例は、細径部43（ソリッド、中空状を問わず）を振出部4aの上面に設けた一例であり、前記図9に示す第7の例とほぼ同様で孔41が開口を経由して形成されている構成である。但し、前記細径部43の基端43aが穂先側振出竿31の先端開口部32の内側に入り込んでいない構成等が相違する。図11に示す第9の例は、ソリッドの細径部43を係合基部42に到らしめ、その係合基部42の端面に孔41を備えた孔構成部材41aを設け、この孔構成部材41aの孔41と細径部43とを連通する構成である。また図12に示す第10の例は、ソリッドの細径部43を係合基部42に到らしめ、その係合基部42に孔41を設け、この孔41を細径部43に到らしめる構成である。前記係合基部42にガイド部を形成した構成等が相違するが、このガイド部は細径部43の設けられる面及び／又は釣糸Aのスムーズな誘導、からみ、風による各障害等を考え、例えば、確実性等の点から適宜採用される。一方、前記第1の例～第8の例、第10の例では、それぞれ孔構成部材41a又はほぼ同様な構成の孔構成部材（図示せず）を採用することは勿論可能であり、各例ともソリッド、中空状は図例、説明例に限定されず、要は穂先竿4の係合基部42に釣糸Aが通過又は導かれる孔41、通路、隙間、切欠、空間等の装置（手段、又は方法）が設けられる構成であれば、いずれでも採用できる。また前述の如く、少なくとも細径部43の構成は、ソリッド、中空状の限定はない。

【0020】尚、前記穂先竿4は、色々の中通し振出竿に使用できる。具体的には、前述の例の他に、使用するリールが両軸リール・スピニングリール等の場合で、穂先竿側（前方）に釣糸Aを繰り出した方が、リール操作がし易くかつ使い易い、例えば、図22のような従来の中通し振出竿1A、又は図23のような手元竿と元上が並継である従来の中通し振出竿1Bであっても勿論使用できる。即ち、図22に於て、リール5を備えた手元竿200aに孔201aを設け（孔の位置は手元竿にあればどこにあつてもよいので、限定されない。以下同じ）かつ幾本かの中通し用の振出竿3及び穂先竿4が入れ子式に挿設され、図示しない上栓と止蓋800とで、前記手元竿200a内に収容される構成の竿である。そして、当該竿を使用する場合は、まず上栓を取り外し、手元竿200aにリール5をセットした後、当該リール5より繰り出された釣糸Aを当該手元竿200aに設けた孔201aより挿入し、その後、幾本かの中通し用の振出竿3に到らしめ穂先竿4の係合基部42の孔41を経由し、穂先竿4の第1の釣糸ガイド環44から順次挿通されトップガイド環48に到らしめる構成である。また

例えば図23では、リール5を備えた手元竿200bに元上202が並継され、当該元上202に釣糸挿通用の孔201bを設ける（孔201bの位置は元上202にあればどこでもよく限定されない。以下同じ）。したがって、通常は元上202に幾本かの中通し用の振出竿3及び穂先竿4が収容される構成であるので、当該竿を使用する場合は、上栓として機能する嵌合方式の手元竿200bを元上202より脱外し、当該手元竿200bに元上202を並継する。尚、釣糸Aはリール5より繰り出され、その後、元上202に設けた釣糸挿通用の孔201bに挿入される。そして、幾本かの中通し用の振出竿3に到らしめ、その後、穂先竿4の係合基部42の孔41を経由し、穂先竿4の第1の釣糸ガイド環44から順次挿通されトップガイド環48に到らしめる構成である。さらにまた図24に示す如く、前記穂先竿4は竿蓋8に孔81を設けるかわりに手元竿200cの基端2aに釣糸挿通用の孔201cを設ける場合には、リール5より繰り出した釣糸Aは、手元竿200の孔201cに通した後、当該手元竿200cから幾本かの中通し用の振出竿3を経由し、穂先竿4の係合基部42の孔41に到らしめる。その後釣糸Aは、穂先竿4の第1の釣糸ガイド環44から順次挿通されトップガイド環48に到らしめる構成である。尚、800は振出竿3及び穂先竿4の抜け止用の止蓋である。以上の図22～図24の例では、その効果は、中通し挿入ワイヤーを必要とせず、中通し振出竿1A～1Cに、簡易かつ迅速に釣糸Aを挿入することができ、釣を楽しむことができる。

【0021】尚、図17～図19はリール5と、手元釣糸ガイド環17を手元竿2の基端2aに取付ける他の例を示しており、具体的には手元釣糸ガイド環17を備えたリール取付部16をリール装置18に着脱自在に設ける構成となっている。即ち、リール取付部16は前記基端2aに設けたリール装置18の取付部固定受入口181に挿入される取付基板一方側161、前記リール装置18の本体部182に添接される取付基板162、前記リール装置18の取付部摺動受入口183に挿入される取付基板他方側163、とで構成されている。したがって、当該リール装置18の取付部固定受入口181への取付基板一方側161の挿入と、同取付部摺動受入口183への取付基板他方側163の挿入及びロック片64の押下げ操作による係止溝62と係止爪65により、当該リール装置18にリール5を取付けた手元釣糸ガイド環17を有するリール取付部16が装置される。図中164はリール取付け部16の摺動受入口、165はリール取付部16の固定受入口、166は本体部、をそれぞれ示している。また167は手元釣糸ガイド環17と取付基板162とを連繋する補強杆であるが、必要に応じて設けられる。この例では、携帯時等において、手元釣糸ガイド環17が基端2aより突出せず釣竿の形態、収容等に利便である。

11

【0022】更に図20、図21はリール5と、手元釣糸ガイド環27を手元竿2の基端2aに取付ける他の例を示しており、具体的には手元釣糸ガイド環27を備えたリール取付具116をリール装置18に着脱自在に設ける構成となっている。即ち、取付部固定受入口61に設けた挿入孔611よりリール取付具116のリール取付本体部126を挿入し、その先端を摺動受入口66に衝止（係止）する。これにより、当該リール取付具116は摺動受入口66と固定受入口61との間に装着されるときともに、手元釣糸ガイド環27が手元竿2の基端2a外に位置される。そこでリール5の基板一方側51を固定受入口61とリール取付本体部126の基部との隙間に挿入するとともに、その基板他方側52を摺動受入口66とリール取付本体部126の先端との隙間に挿入する。一方リール基板53には、場合により当部53aを設けリール取付本体部126に当接させる。勿論当部53aは、リール取付本体部126及び／又は基板53の形状、構成等よりして不要の場合もあるし、又スペーサー（図示せず）を介設することもできる。以上のようにしてリール取付具116及びリール5が取付けられるので、その後の操作及び手順は前述の例と同様である。尚、効果も前記図17～図19の例とほぼ同様に考えられる。またリール取付具116の全体構成は一例である。

【0023】

【発明の効果】本発明は以上の構成を採用することにより下記の効果を有する。即ち、（1）釣糸挿入ワイヤを要さずして、中通し振出竿に、簡易かつ迅速に釣糸を挿入し得る。（2）穂先竿の外寸を小さくして、少なくとも従来の穂先竿と同様な弾性感覚を発揮し得る。（3）リールの取付け位置を変更すれば、中通し振出竿に重量バランスを確保できる。（4）構造簡単であり、使用の簡便性、低コスト化が図れる。（5）手元釣糸ガイド環が着脱構成では、形態、収容、移行等に利便である。

【図面の簡単な説明】

【図1】中通し振出竿の全体を示す一部省略の正面図である。

【図2】穂先竿を示す拡大正面図である。

【図3】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第1の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図4】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第2の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図5】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第3の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図6】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第4の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

12

【図7】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第5の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図8】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第6の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図9】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第7の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図10】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第8の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図11】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第9の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図12】穂先竿の係合基部、孔と穂先側振出竿の先端開口部の第10の例を拡大して示す図で、（イ）は縦断面図、（ロ）は端面図である。

【図13】図は穂先竿の細径部の具体的な一例を拡大して示しており、（1）のア、イ、ウ、エは、図3の各ア、イ、ウ、エの断面図、同（2）のア、イ、ウ、エは、図3の変形例の各ア、イ、ウ、エの断面図、（3）のア、イ、ウ、エは、図7の各ア、イ、ウ、エの断面図、同（4）のア、イ、ウ、エは、図7の変形例の各ア、イ、ウ、エの断面図である。

【図14】リールを更に拡大した斜視図である。

【図15】他のリールを更に拡大し、裏面視した斜視図である。

【図16】リール取付部と手元竿との関係を更に拡大して示す斜視図である。

【図17】リール装置及びリール取付部と手元竿との関係を更に拡大して示す斜視図である。

【図18】リール装置と手元竿との関係を更に拡大して示す斜視図である。

【図19】リール取付部の他の一例を更に拡大して示す斜視図である。

【図20】リール取付具とリール装置とのその他の一例を拡大して示す斜視図である。

【図21】リール取付具とリール装置とのその他の一例の装着状態を拡大して示す斜視図である。

【図22】穂先竿の使用例を示し手元竿に釣糸挿通用の孔を設けた中通し振出竿の一部省略の正面図である。

【図23】穂先竿の使用例を示し元上に釣糸挿通用の孔を設けた中通し振出竿の一部省略の正面図である。

【図24】穂先竿の使用例を示し手元竿の基端に釣糸挿通用の孔を設けた中通し振出竿の一部省略の正面図である。

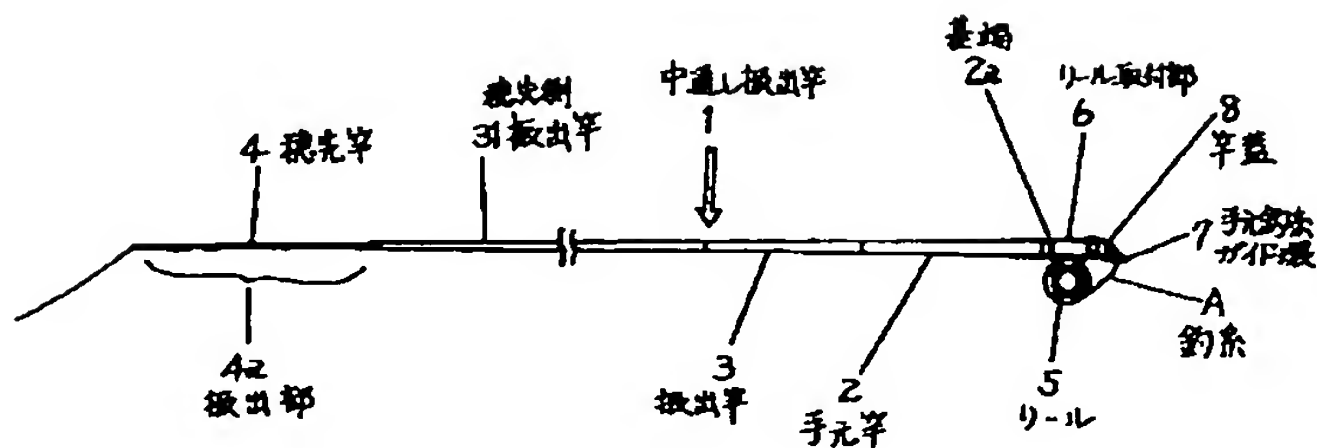
【図25】従来の中通し振出竿の一例を示す一部省略の正面図である。

【符号の説明】

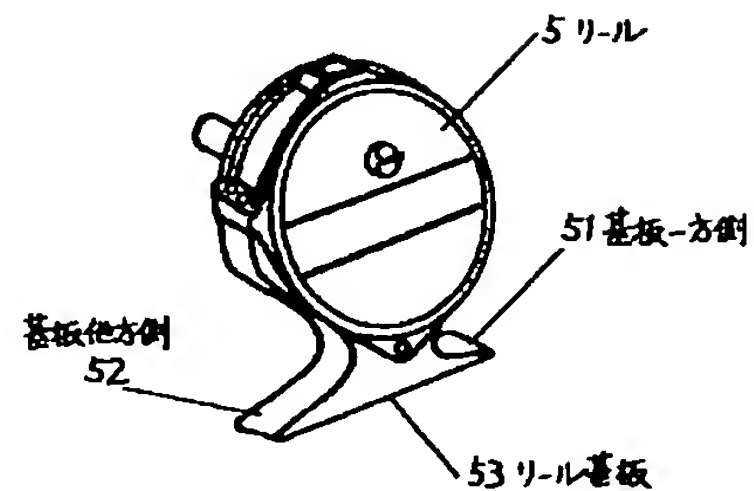
- 1 中通し振出竿
- 1 A 中通し振出竿
- 1 B 中通し振出竿
- 1 C 中通し振出竿
- 2 手元竿
- 2 a 基端
- 3 振出竿
- 3 1 穂先側振出竿
- 3 2 先端開口部
- 4 穂先竿
- 4 a 振出部
- 4 1 孔
- 4 1 a 孔構成部材
- 4 2 係合基部
- 4 2 a 端面
- 4 3 細径部
- 4 3 a 基端
- 4 4 第1の釣糸ガイド環
- 4 5 第2の釣糸ガイド環
- 4 6 第3の釣糸ガイド環
- 4 7 第4の釣糸ガイド環
- 4 8 トップガイド環
- 5 リール
- 5 1 基板一方側
- 5 2 基板他方側
- 5 3 リール基板
- 5 3 a 当部
- 6 リール取付部
- 6 1 固定受入口
- 6 1 1 挿入孔
- 6 2 係止溝
- 6 3 本体部
- 6 4 ロック片
- 6 5 係止爪
- 6 6 摺動受入口

- | | | |
|----|-------|-----------|
| | 7 | 手元釣糸ガイド環 |
| | 8 | 竿蓋 |
| | 81 | 孔 |
| | 116 | リール取付具 |
| | 126 | リール取付本体部 |
| | 16 | リール取付部 |
| | 161 | 取付基板一方側 |
| | 162 | 取付基板 |
| | 163 | 取付基板他方側 |
| 10 | 164 | 取付基板摺動受入口 |
| | 165 | 取付基板固定受入口 |
| | 166 | 本体部 |
| | 167 | 補強杆 |
| | 17 | 手元釣糸ガイド環 |
| | 18 | リール装置 |
| | 181 | 取付部固定受入口 |
| | 182 | 本体部 |
| | 183 | 取付部摺動受入口 |
| | 27 | 手元釣糸ガイド環 |
| 20 | 200a | 手元竿 |
| | 200b | 手元竿 |
| | 200c | 手元竿 |
| | 201a | 孔 |
| | 201b | 孔 |
| | 201c | 孔 |
| | 202 | 元上 |
| | 800 | 止蓋 |
| | 1000 | 手元竿 |
| | 1001 | リール |
| 30 | 1001a | 孔 |
| | 1002A | 中通し振出竿 |
| | 1003 | 穂先竿 |
| | 1004 | 小開口部（小孔） |
| | A | 釣糸 |

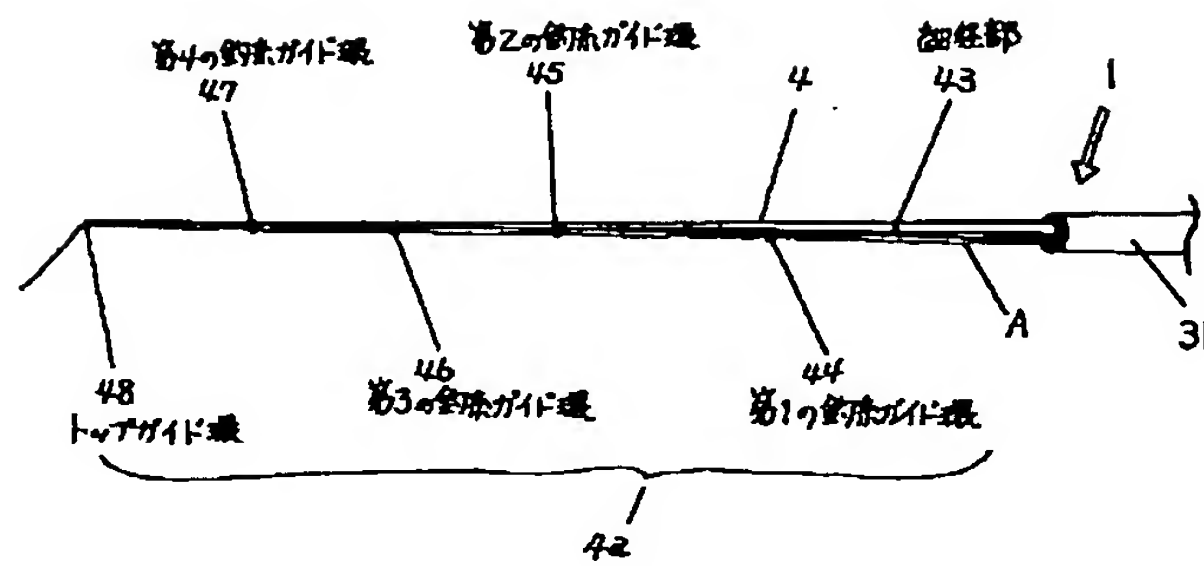
【図1】



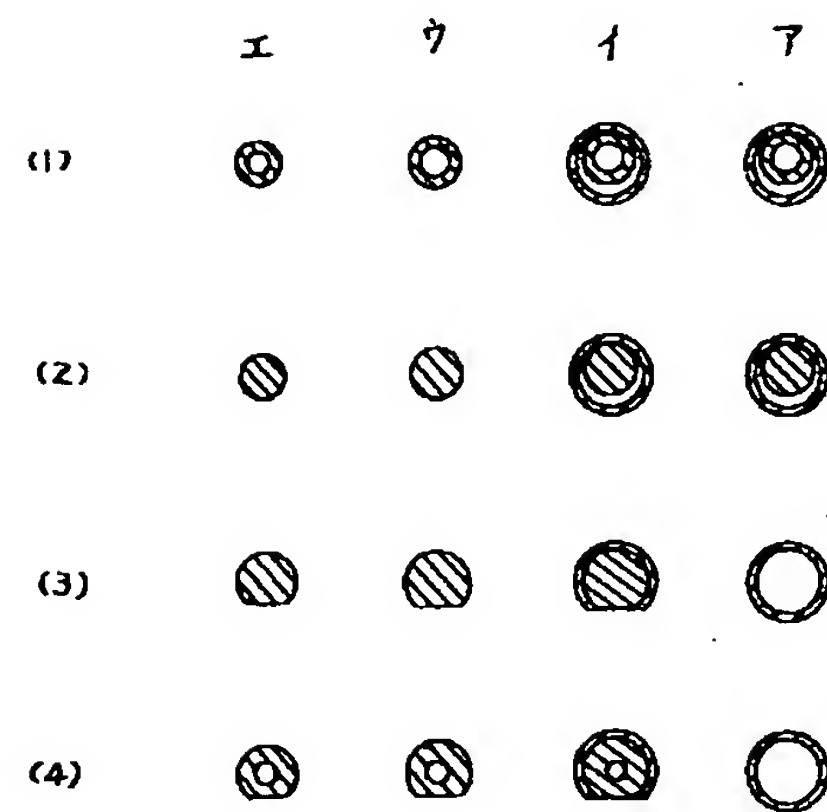
【图 14】



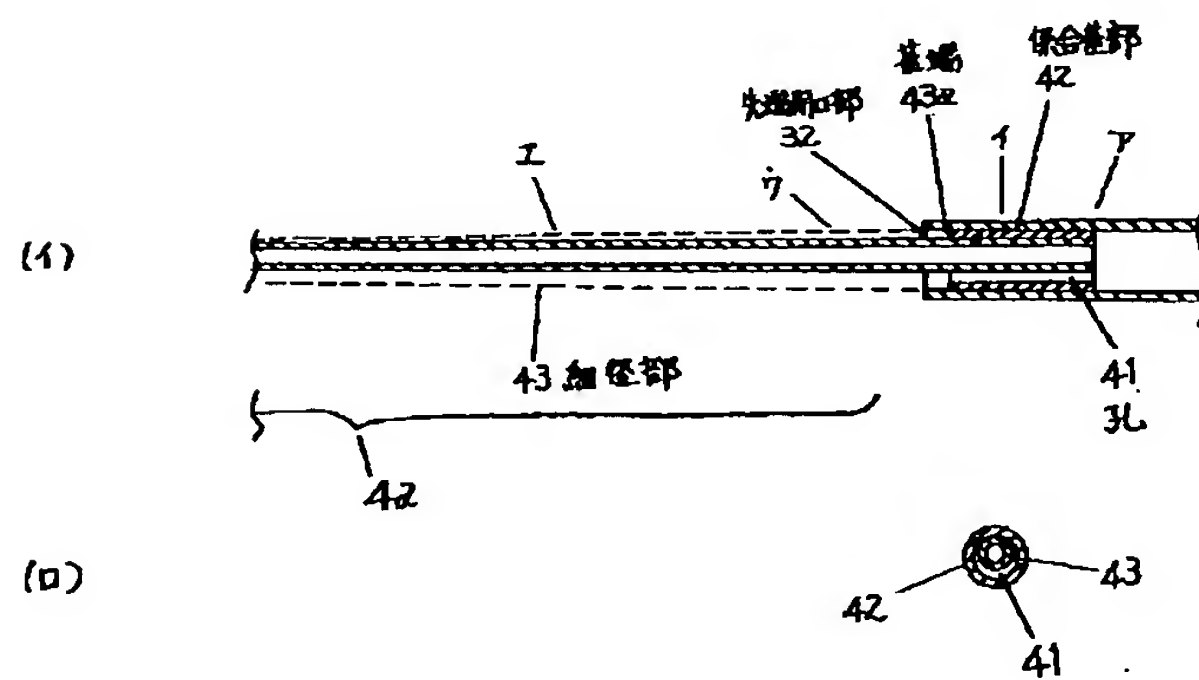
【図2】



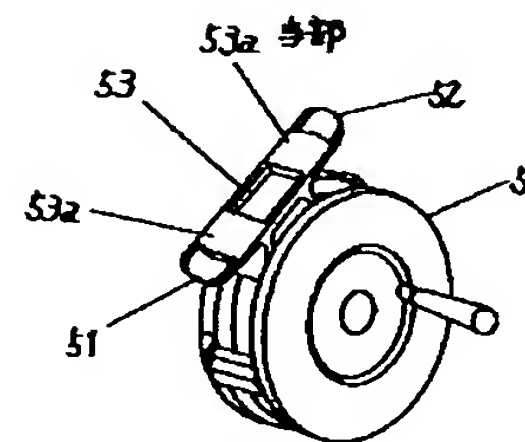
【図13】



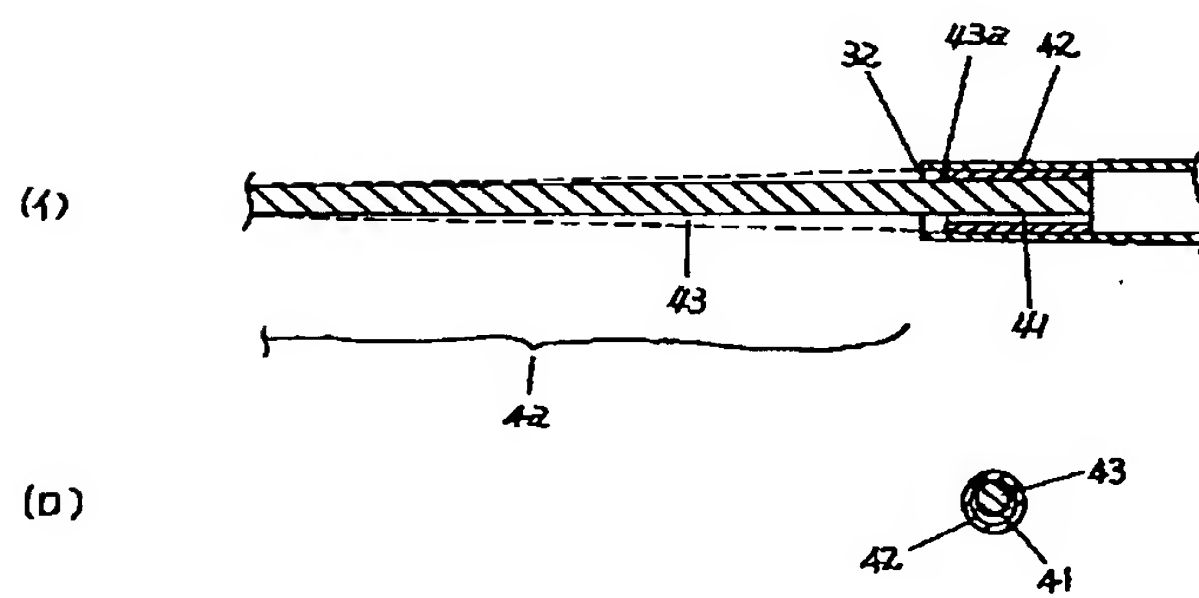
【図3】



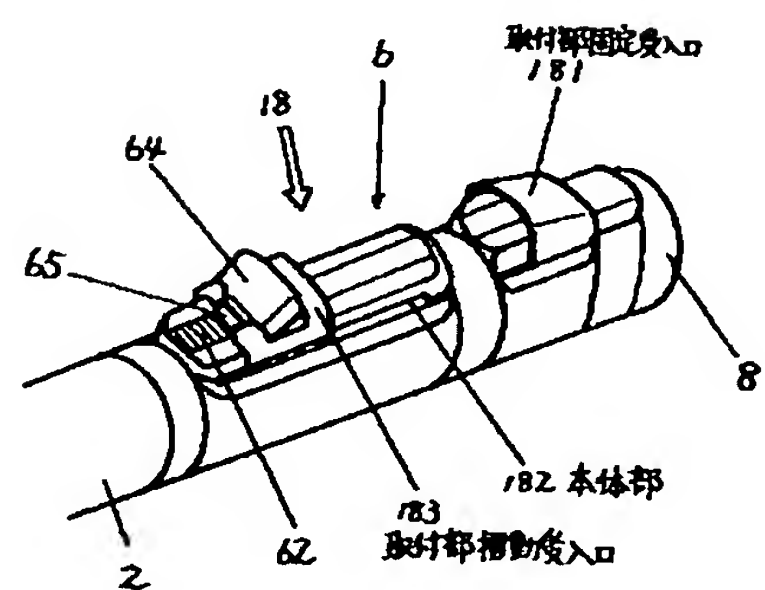
【図15】



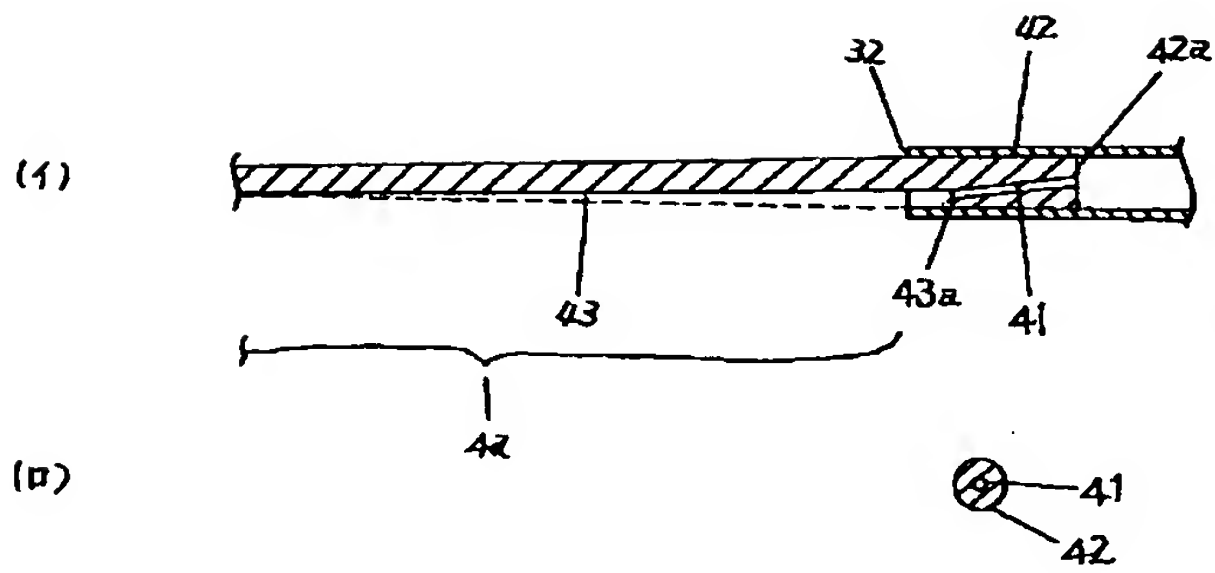
【図4】



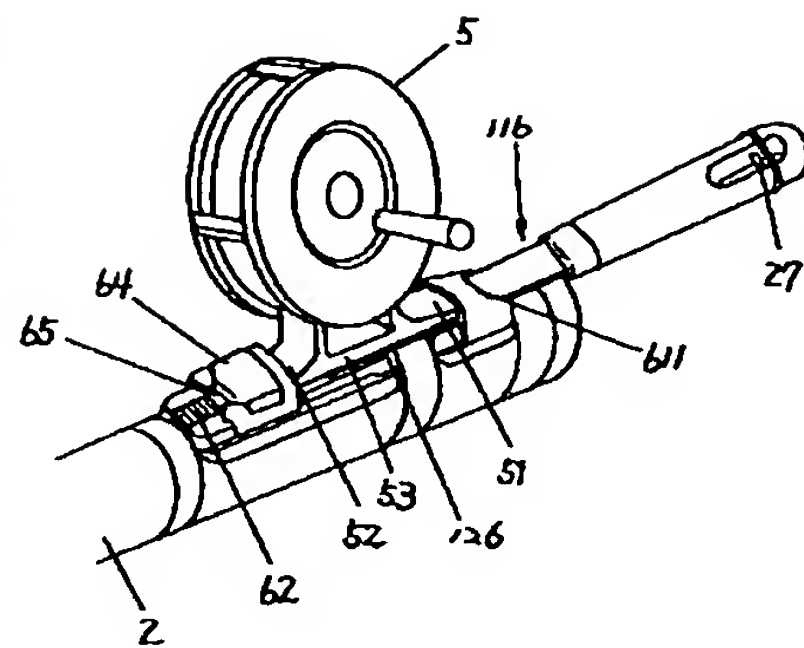
【図18】



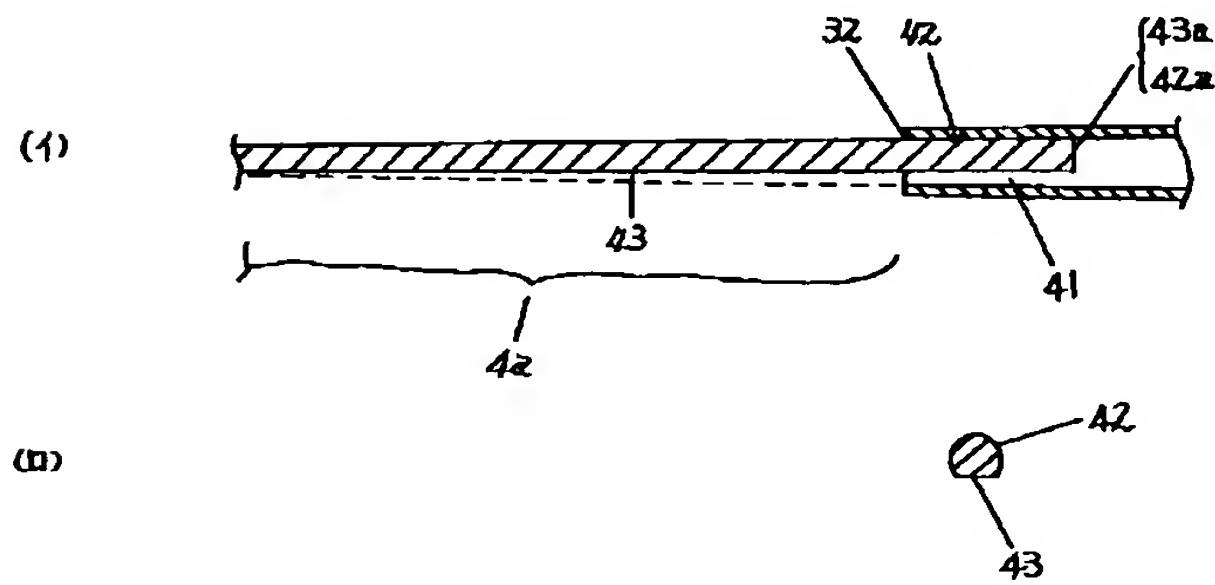
【図5】



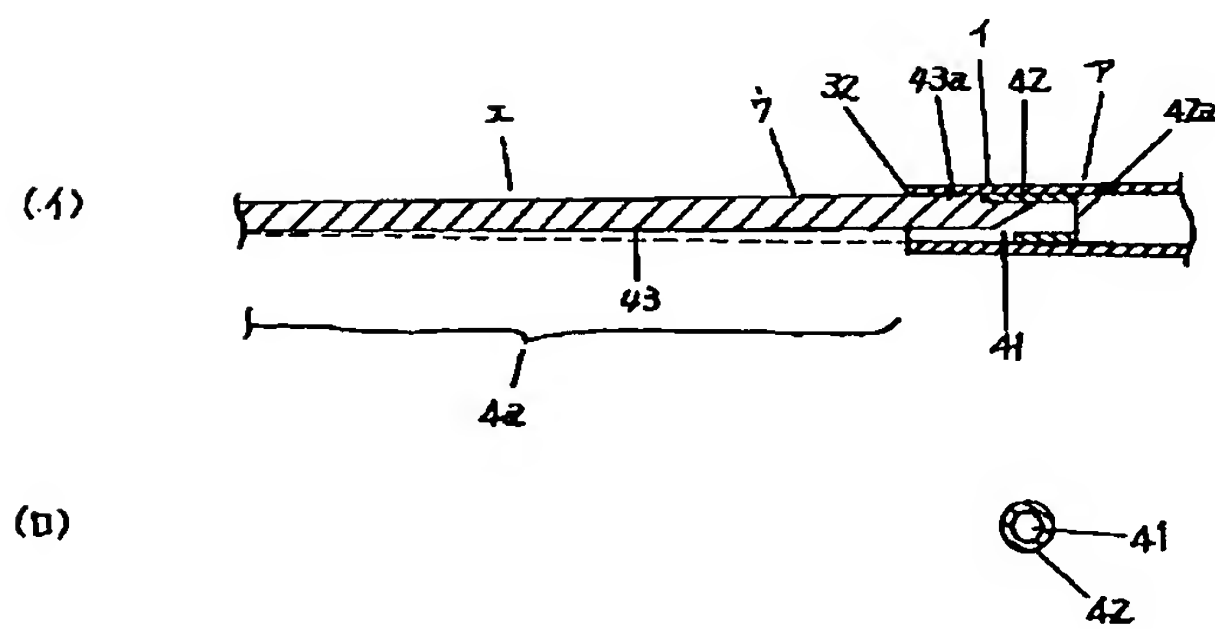
【図21】



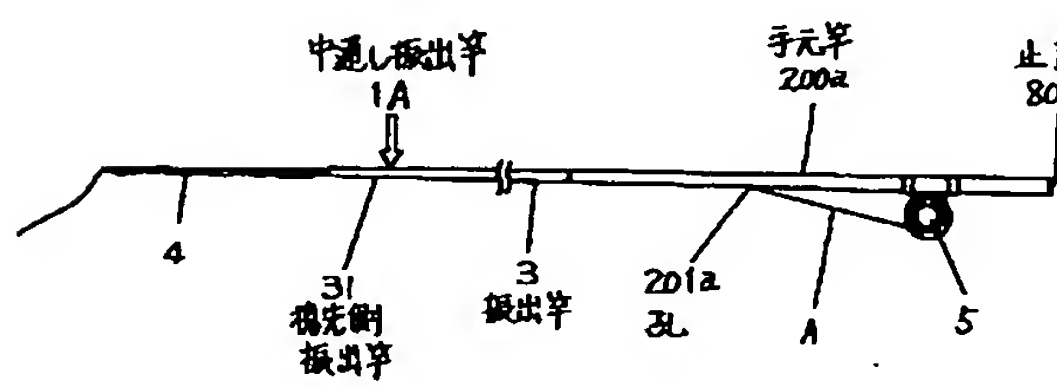
【図6】



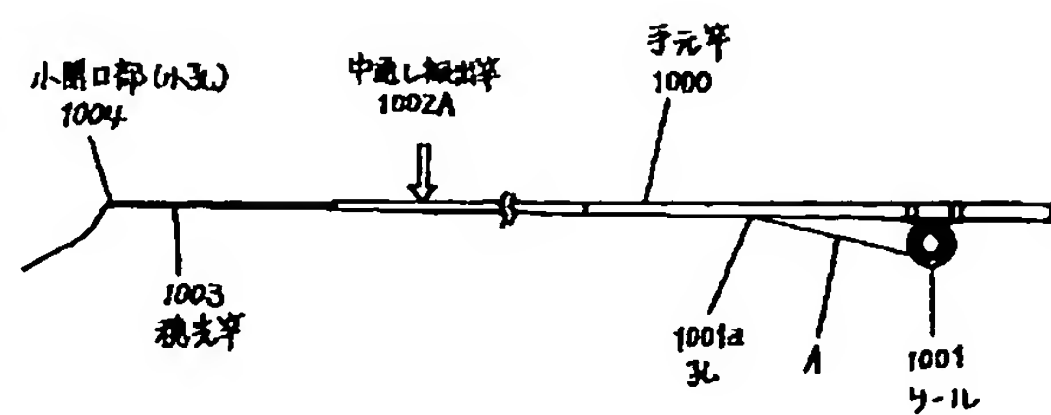
【図7】



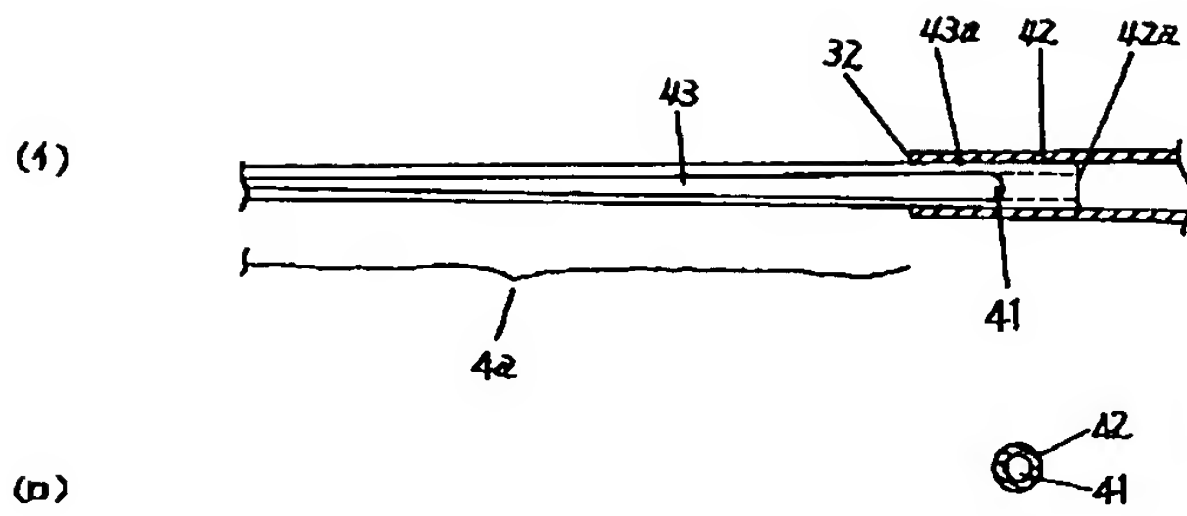
【図22】



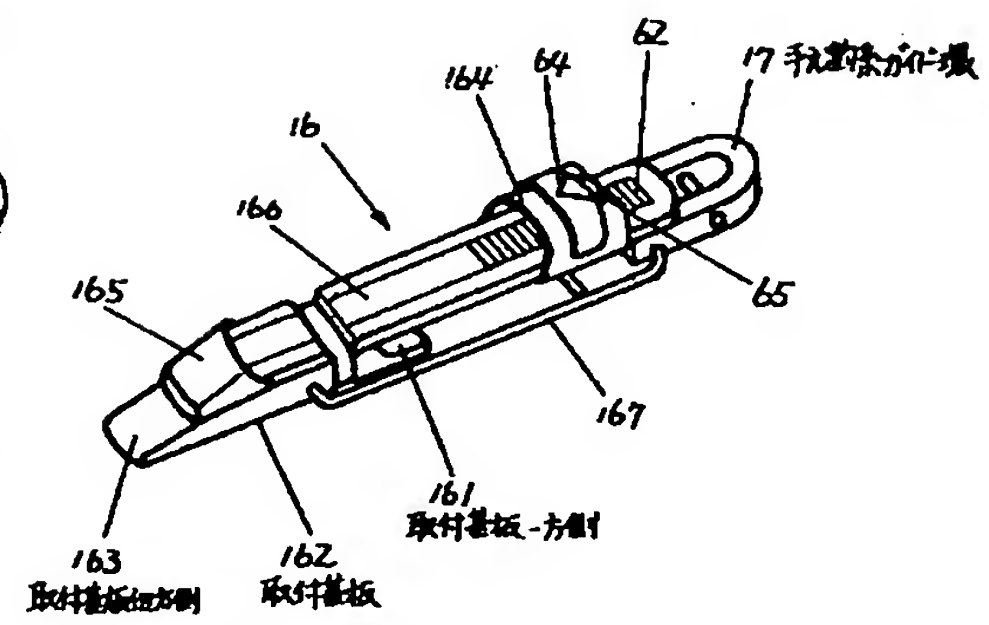
【図25】



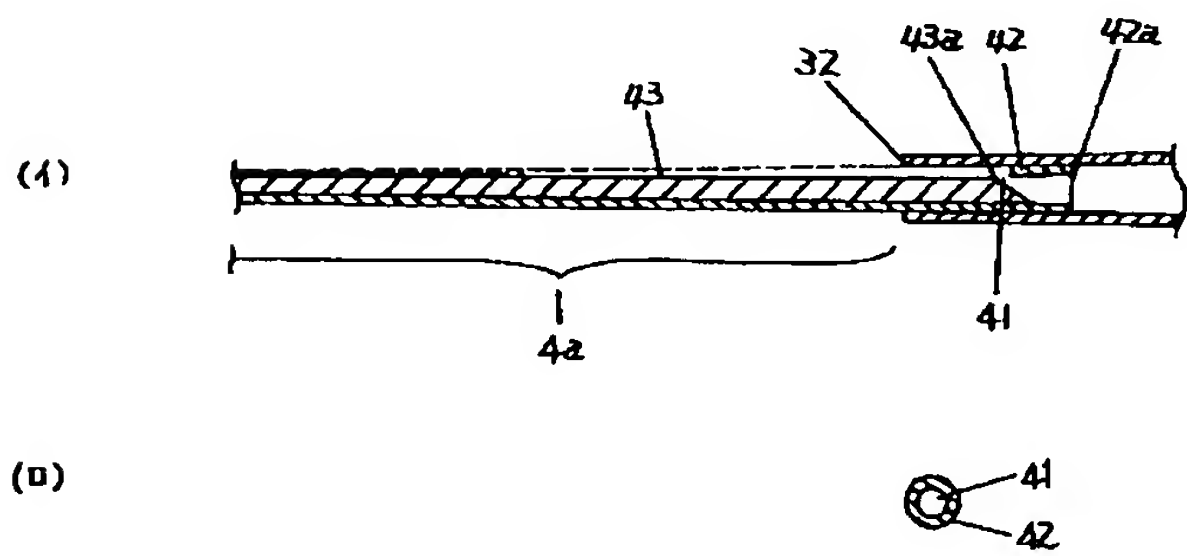
【図8】



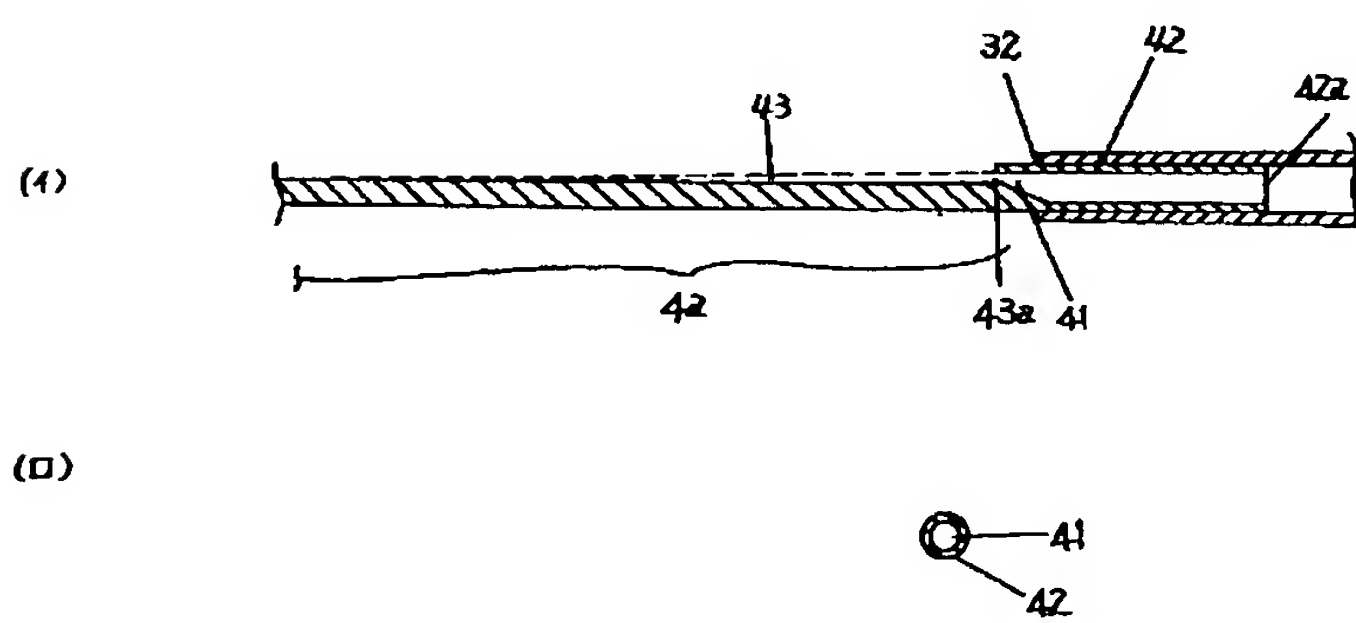
【図19】



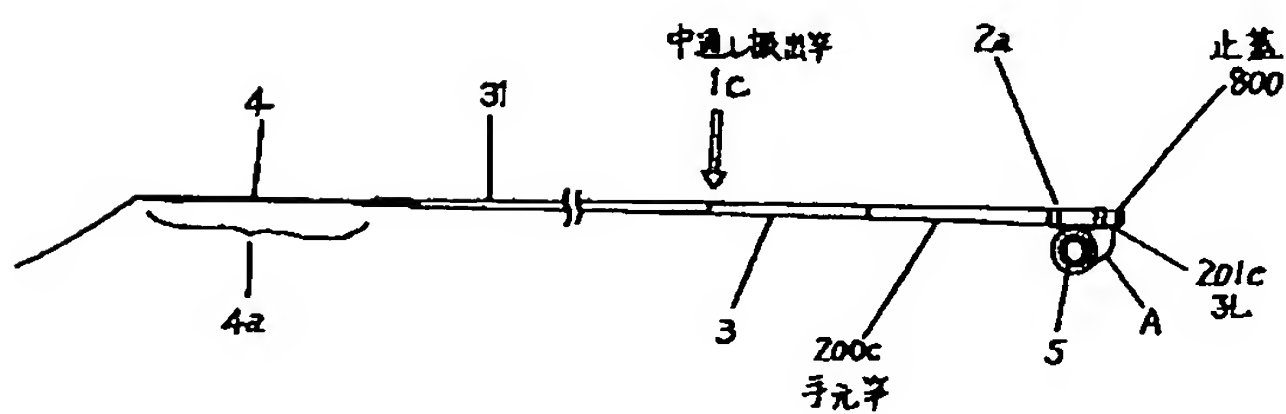
【図9】



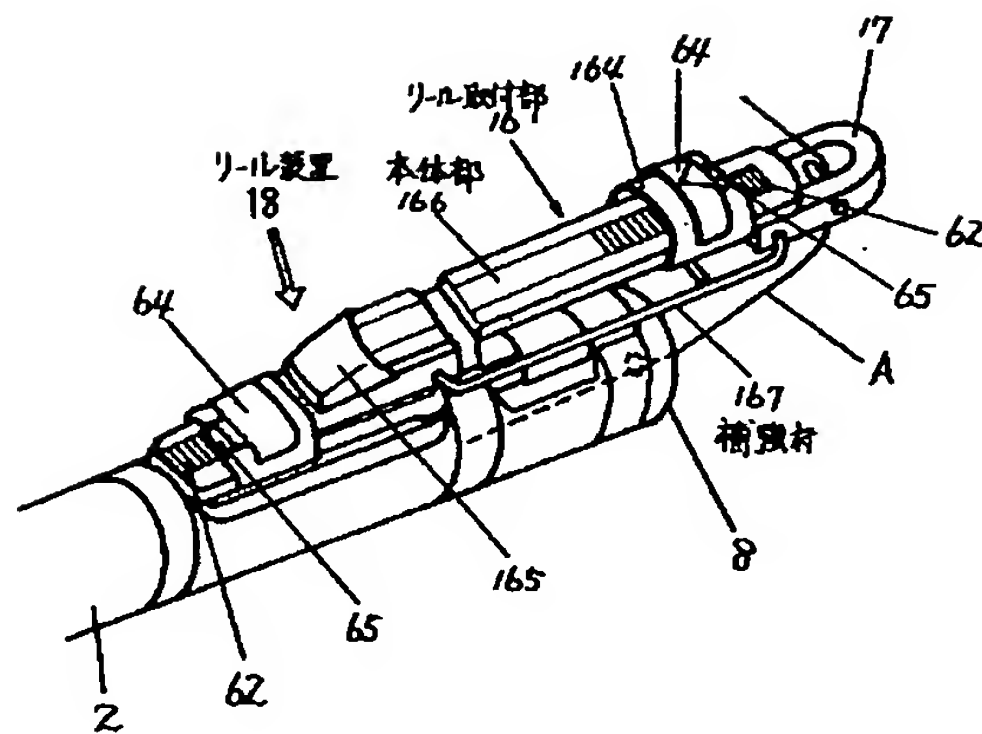
【図10】



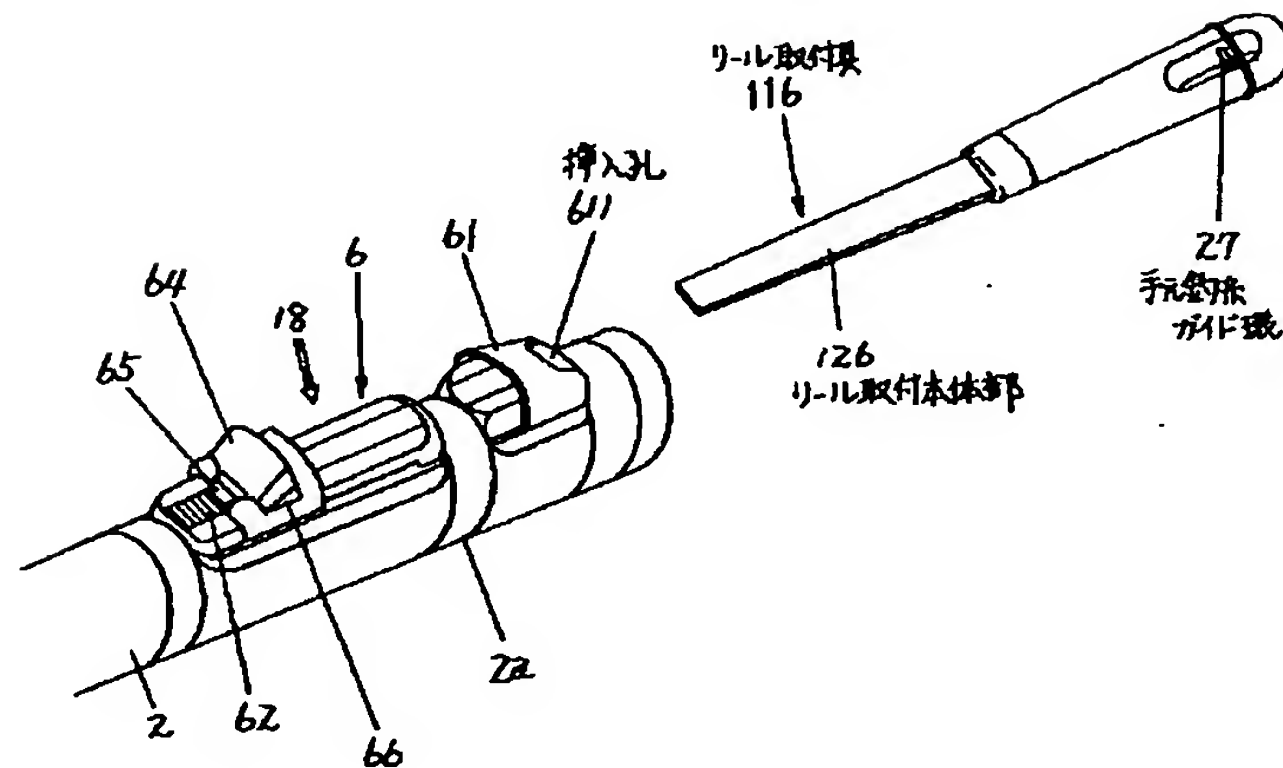
【図24】



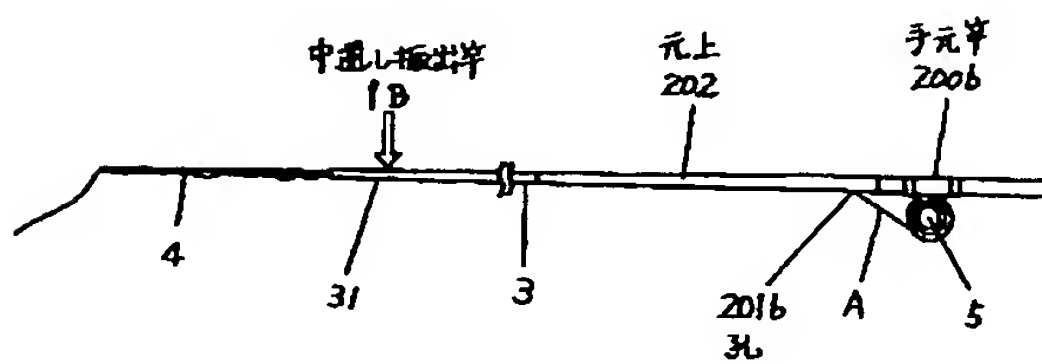
【図 17】



【図20】



【☒ 23】



PAT-NO: JP407227181A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07227181 A

TITLE: INTERNALLY THREADED SHAKING OUT FISHING ROD,
ROOT ROD OF
STRUCTURE INTERNALLY THREADED SHAKING OUT FISHING ROD AND
OF EAR TIP FISHING ROD OF INTERNALLY THREADED
SHAKING OUT
FISHING ROD OR THE LIKE

PUBN-DATE: August 29, 1995

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
NAITO, KIYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
NAITO KIYOSHI N/A

APPL-NO: JP06304927

APPL-DATE: December 8, 1994

INT-CL (IPC): A01K087/00, A01K087/04 , A01K087/06

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain an internally threaded shaking out fishing rod equipped with a shaking out fishing rod at the tip side, a tip fishing. rod, etc., capable of simply and rapidly inserting a fishing line without requiring a fishing line inserting wire, at a low cost and with excellent simplicity.

CONSTITUTION: This internally threaded shaking out fishing rod 1 consists of a reel 5 at base edge 2a, a root fishing rod 2 equipped with a hole for inserting a fishing line to a rod cover 8, several internally

threaded shaking
out fishing rods 3 to be housed in the root fishing rod 2 in a
telescopic pipe
way, an ear tip fishing line rod 4 which is housed in a shaking out
fishing rod
31 at the ear tip side of the shaking out fishing rod 3 and is
provided with an
engaging base part to be engaged with an opening part at the ear tip
side in a
state of the ear tip fishing rod shaken out by the shaking out
fishing rod 31
at the ear tip side, a bored hole, a route hole, other holes such as
an opening
hole for inserting a fishing line A attached to at least the engaging
base part
of the ear tip fishing rod 4 and a fishing line guide ring and a top
guide ring
stuck to the outer peripheral surface of a shaking out part 4a of the
ear tip
fishing rod 4.

COPYRIGHT: (C)1995, JPO

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.